



未就職卒業生への集中支援2014

- ◇ 厚生労働省、文部科学省及び経済産業省は、1人でも多くの新卒者が卒業までに就職できるよう、1月21日から3月末まで「未内定就活生への集中支援2014」に取り組んでおり、1月から2月末までにジョブサポーターの支援によって、約2万2千人が就職しています。
- ◇ 卒業までに就職が決まらなかった場合であっても1日でも早く就職できるよう、引き続き、6月末までを集中支援期間とし、「未就職卒業生への集中支援2014」に取り組み、**卒業後もジョブサポーターによる個別支援を継続し、就職が決まるまで全力で支援を行います。**

新卒応援ハローワーク等で卒業後も継続して就職活動を全力で支援します！

新卒応援ハローワーク等においては、卒業後もジョブサポーターによる個別支援を引き続き継続するとともに、1日でも早く就職できるよう、全力で支援を行います。

ジョブサポーターによる個別支援

大学等とジョブサポーターとの情報共有による支援（大学等の協力により把握した未内定者への電話による来所勧奨や求人情報の送付など）を継続するとともに、就職活動についてのアドバイスや希望に沿った求人情報の提供などの個別支援を徹底し、1日でも早い就職を目指します。

新卒応援ハローワークの所在地・連絡先：<http://www.mhlw.go.jp/topics/2010/01/tp0127-2/dl/5a.pdf>

就職面接会の開催

中小・中堅企業を中心に就職面接会を随時開催し、企業との出会いの機会を増やします。

地域の大学等との連携による中小企業と大学生等とのマッチング等の実施

未内定の学生を含む新卒者等に対し中小企業・小規模事業者が実施する職場実習を支援する他、地域の中小企業・小規模事業者が一体となって大学、ハローワーク等と連携し、学生との日常的な顔の見える関係作りから新卒者等の採用・定着までを一貫して支援する体制を構築します。（未内定就活生を対象とした合同就職説明会が予定されております。）

中小企業庁ホームページ（<http://www.chusho.meti.go.jp/keiei/koyou/jinzai.htm>）

※ 上記の支援や新卒応援ハローワークについては、卒業後も利用可能です。

さらに、ニーズに応じて無料の職業訓練やインターンシップも活用し、就職を支援します。

無料の職業訓練等によるスキルアップ

求職者支援制度による職業訓練において設定される未就職卒業生向けの無料の職業訓練や企業に雇用されながら生きた技能・技術を学ぶための雇用型訓練を活用し、スキルアップを支援します。

詳しくはお近くのハローワークまでお問い合わせください（<http://www.mhlw.go.jp/kouseiroudoushou/shozaiannai/roudoukyoku/>）。

中小企業・小規模事業者の事業現場でインターンシップを実施

中小企業・小規模事業者の事業現場で働く上で必要な技術・技能・ノウハウを習得する機会を提供するため、中小企業・小規模事業者で実施する職場実習（いわゆるインターンシップ）を支援します。

中小企業庁人材対策事業ホームページ：<http://www.chusho.meti.go.jp/keiei/koyou/jinzai.htm>

～未就職のまま卒業された方に対する就職支援を継続して行います～

○ 卒業後も引き続き、新卒応援ハローワーク、ジョブサポーター等による支援を継続し、1日でも早い就職を目指します。

【未内定のまま卒業された方のうち、新卒応援ハローワーク、ジョブサポーター等の支援による就職の実績】

平成25年4月～6月：19,755人

平成24年4月～6月：24,663人

平成23年4月～6月：19,815人

～ジョブサポーター等の支援による未内定卒業生の就職事例～

事例1

県外の大学を卒業と同時に帰郷したAさん。実家に戻ったものの、再び大学のあった地域への就職を希望し、自ら就職活動を行うも、なかなか就職が決まらず、ほぼ毎週県外に通うという状況であった。ハローワークに登録後、ジョブサポーターが、ハローワークの全国ネットワークの強みを生かし、求人検索時に希望職種と就業場所を絞り、情報提供を行うとともに、応募先に応じた模擬面接を繰り返し行った結果、効率的な就職活動も出来、ほぼ同時に2社内定し、希望の1社に就職決定となった。

事例2

焦りは抱いていたものの、ほとんど就活しないまま卒業してしまったBさん。「何がやりたいかわからない」と沈んだ様子で新卒応援ハローワークに来所。早速自己分析からスタートすると、小学校から大学のサークルまでスポーツ三昧、ゼミは地域政策、アルバイトやインターンシップでは接客と、実は幅広い経験をしていたことを客観的に思い出すことで徐々に自信を回復。やがて「地元で根差して経験をしたい」意欲が固まった。毎週ハローワークに通い、自己PRや志望動機を練り、面接練習を重ね、企業研究や時事問題を追究した結果、第一志とした企業へ採用となった。

事例3

大学4年次の7月～9月に語学留学後、10月から就職活動を開始したCさん。大学出張相談で職業相談を複数回実施。当初英語を活かせる仕事にこだわり、大都市圏でも就職活動をしたが不調。相談の過程で職種を拓げるも未内定のまま卒業。就職をあきらめることのないようCさんの気持ち寄り添いながら、卒業後も新卒応援ハローワーク窓口で担当者制による職業相談、模擬面接等の支援を実施した結果、海外に複数の拠点を持つ事業所の正社員（総合職）に採用となった。

事例4

2浪1留で引け目もあったため3回生の9月から就活を始めたDさん。しかし履歴書を書く段階で行き詰まり、3回生の終りに自分は就活しないと決めた。4回生からアルバイトをし、卒業後もフリーターで1年半働いていたが、このままでもいいのか不安になり、新卒応援ハローワークを訪ねた。新卒応援ハローワークでは、自分のことをよくわかってくれるジョブサポーターと相談し、模擬面接セミナーでは他の受講生の面接風景を見て自分も面接官の目を持つことができ、他の受講生からの厳しい助言も力にした。相談と応募により少しずつ前進を重ね、本気の就活を始めて1ヶ月半で、人生初の内定を得ることができた。